

事例2

< 事例概要 >

出血

- ① 60 歳代、慢性腎不全で透析中。脳出血後遺症（左上下肢麻痺）がある患者。
- ② 動静脈表在化部位の感染疑いのため、血液浄化用カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 11.6 kg/m²。血小板10 万台/μℓ。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 右内頸静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。ガイドワイヤー挿入中に抵抗はなかったが、頸部腫脹が生じた。穿刺針を抜去し、ガイドワイヤーを留置した状態で圧迫止血したが、腫脹が増大したためガイドワイヤーを抜去し圧迫。腫脹は右頸部から右腋窩まで増大。その後心肺停止となり、穿刺から約4 時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、動脈損傷による出血（疑い）。損傷部位は不明。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。